



ESDに資する里山の現代的利用

～南海トラフ地震への対策をめざして～

就実・森の学校

就実・森の学校とは？



旭川

(干拓地)

岡山県庁

高山

笠井山(134m)

沢田

(83m)

就実・森の学校

兼基

今谷

百間川



平成22年から里山整備に取りかかり、今年で9年目を迎えた。

里山の変遷

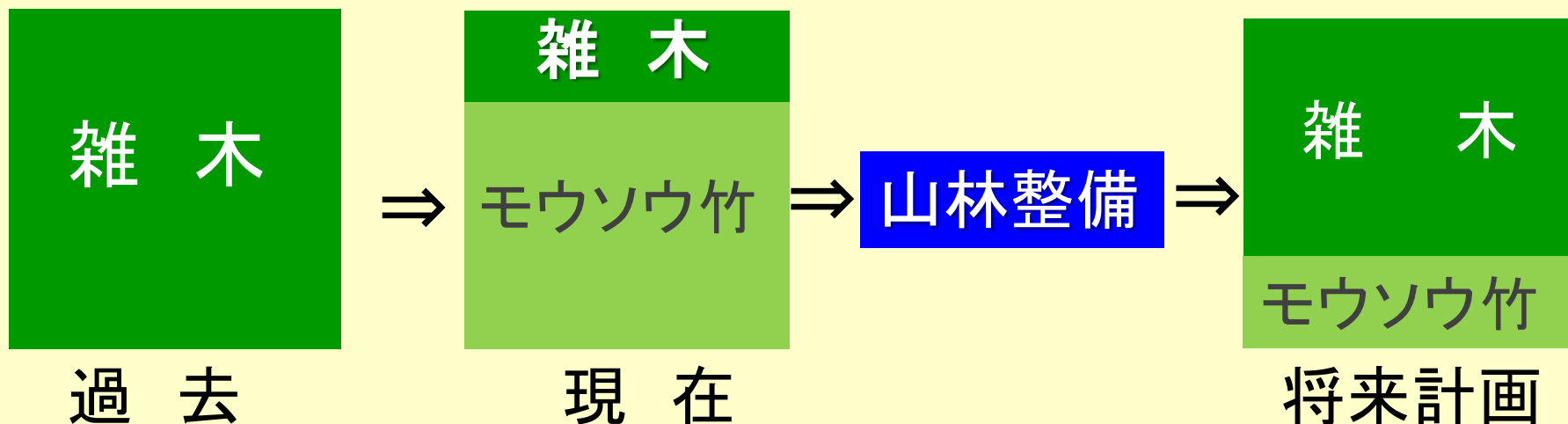


アラカシ・シラカシ・ヤマザクラ・マツ
操山はこのような雑木林が中心だった。



近年、竹林の拡大が著しく、里山は荒廃しつつある。

就実・森の学校将来プラン

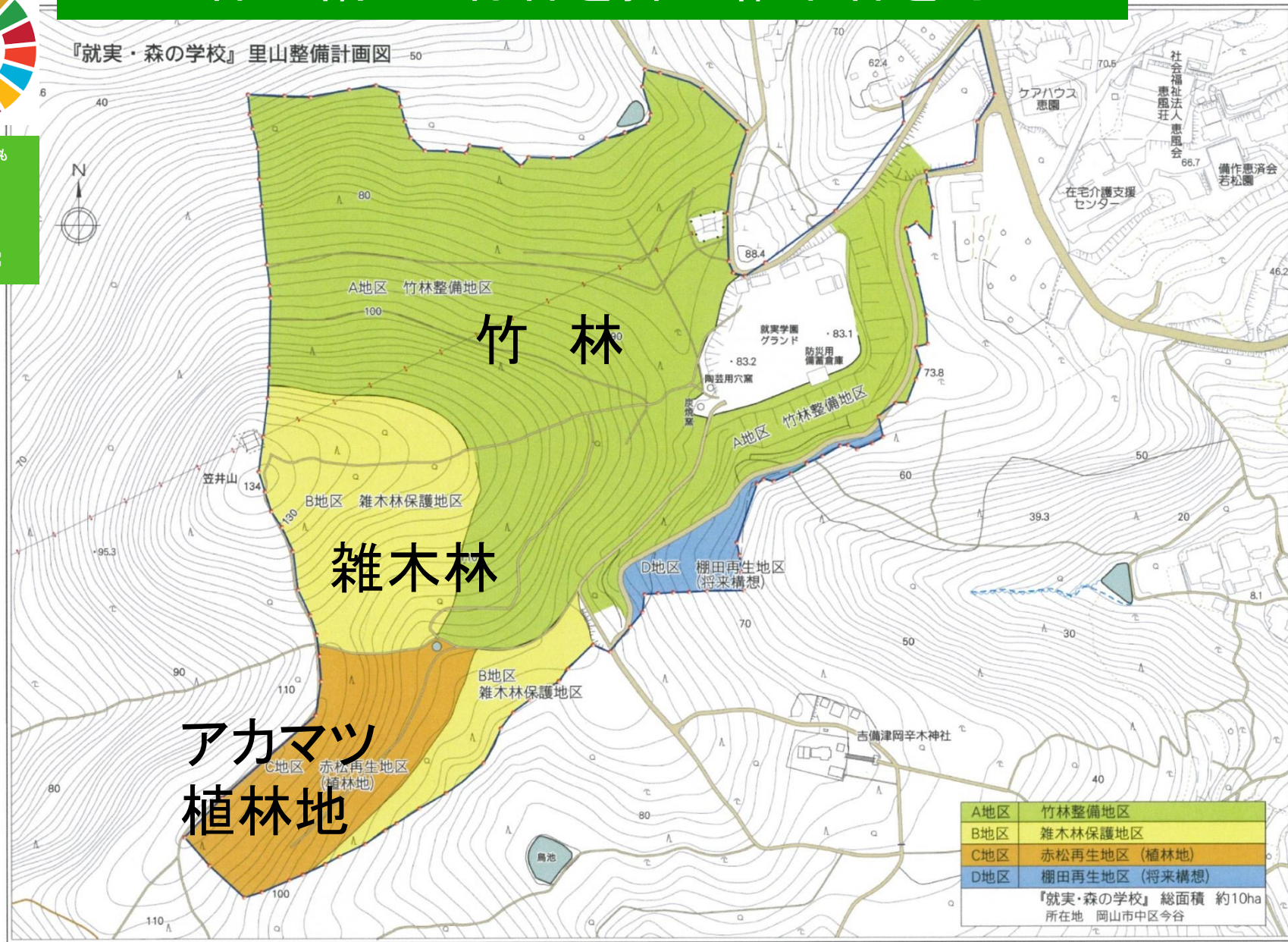


1. 山林整備・アカマツ植林
2. 文化遺産の保護保全
3. 南海トラフ地震対策活動

1. 山林整備・・・竹林を抑え雑木林を守る



15 陸の豊かさも
守ろう





竹林の整備作業

整備された竹林や雑木林で遊ぶ子どもたち



■ アカマツの植林



「就実・森の学校」の植林状況

樹種： 桃太郎松	平成23年度・・・	500本	
	平成24年度・・・	1000本	
	平成25年度・・・	1000本	
	平成26年度・・・	1000本	
	平成27年度・・・	500本	合計4000本



植樹林の整備（年3回・・・中学・高校・生徒が中心）

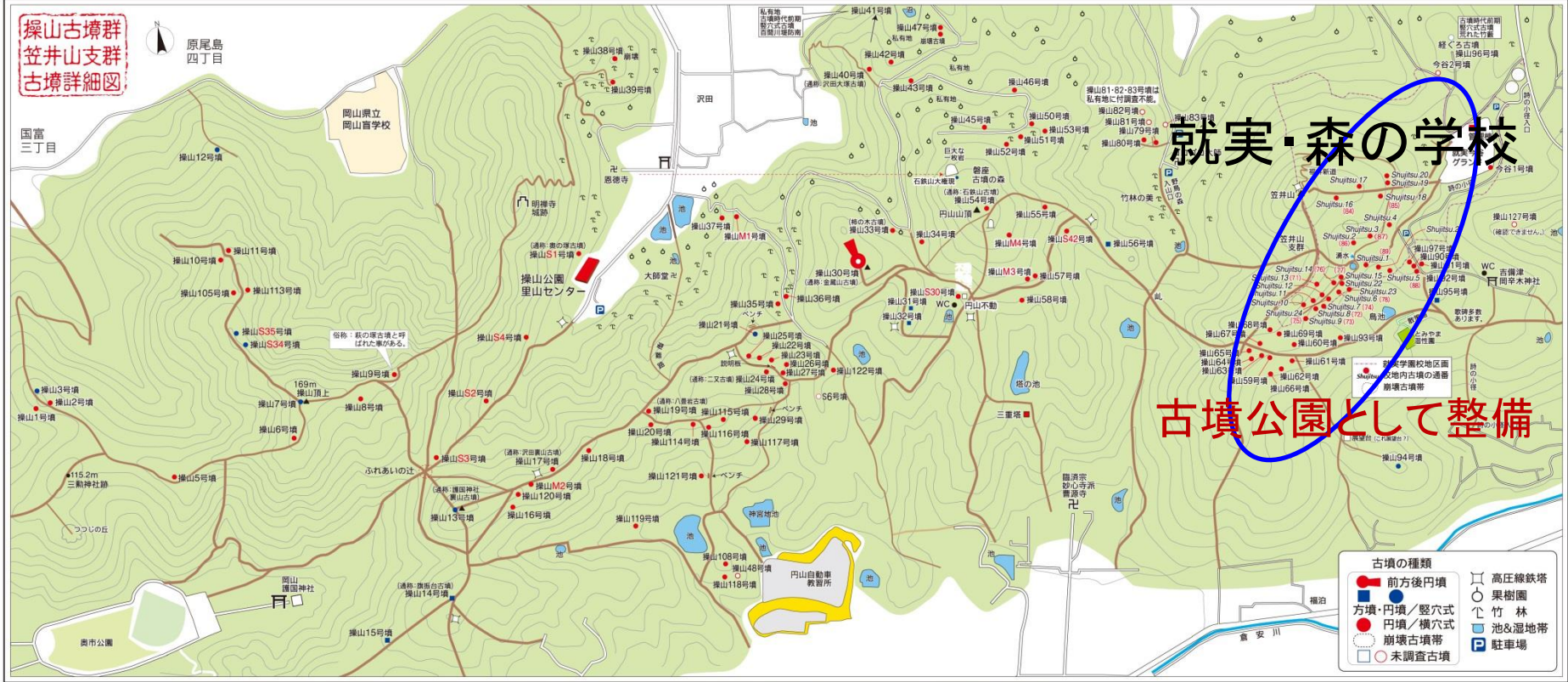
2. 文化遺産の保護保全

古墳時代後期の古墳が27基



2018年度版 操山古墳群および笠井山支群詳細図

★ 笠井山より東部の古墳を追加掲載しました。



※ 操山の古墳で操山00号墳と記載しているのは岡山市埋蔵文化財分布図を参考と致しました。この地図では古墳の位置表示を小さくして出来る限り正確な所在を表しています。操山S号墳は数年前に発見されたものまた、操山M号墳は今回発見したものです。また笠井山南面の古墳の名称をShujitsu.1~24号墳と記録していますのが就実学園の校内にあるためです。

完存の古墳2基



操山S2号墳の玄室と羨門、墳丘は少し流失

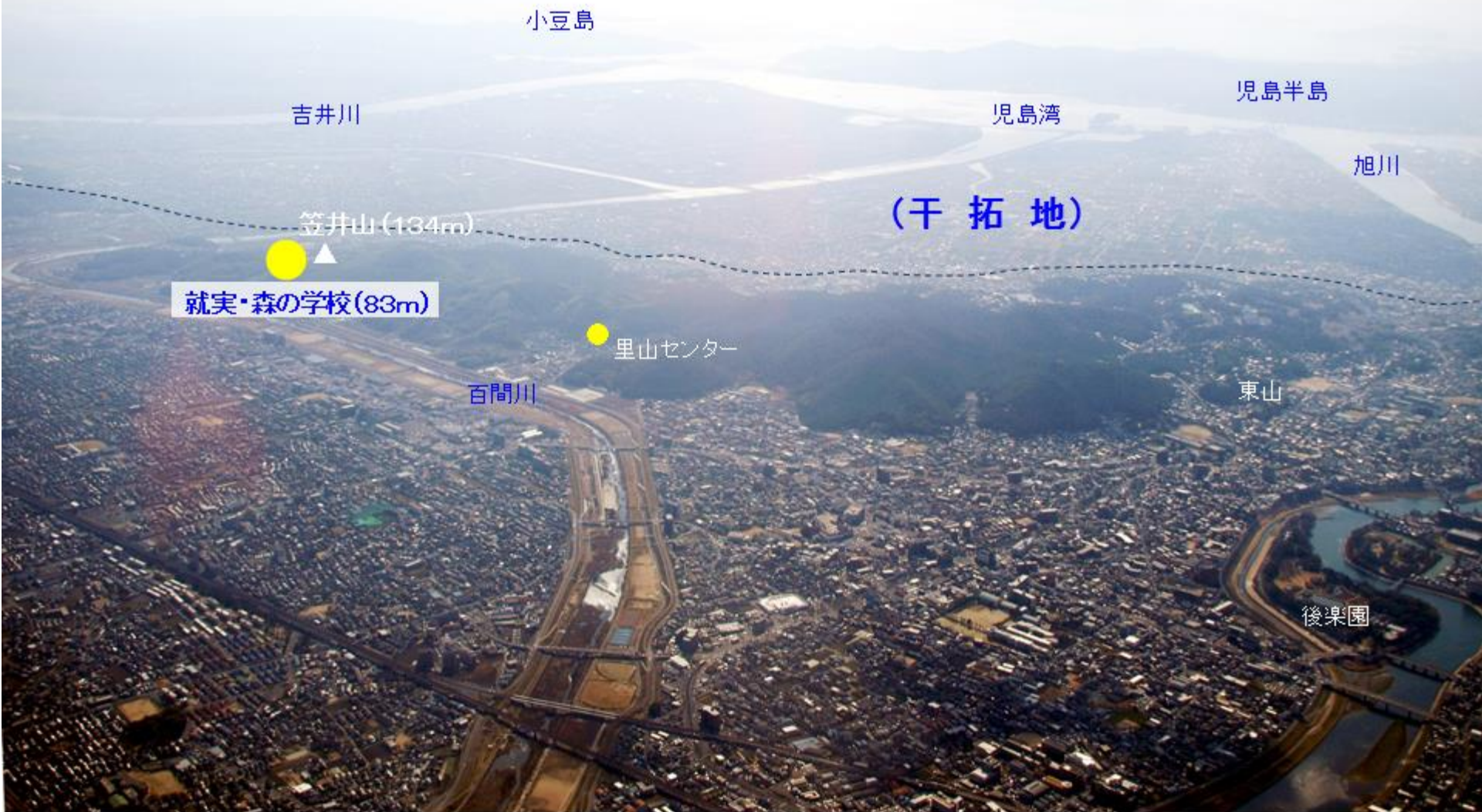


操山S3号墳 (柿の木古墳)の玄室と羨門・墳丘完存

操山古墳群・東部

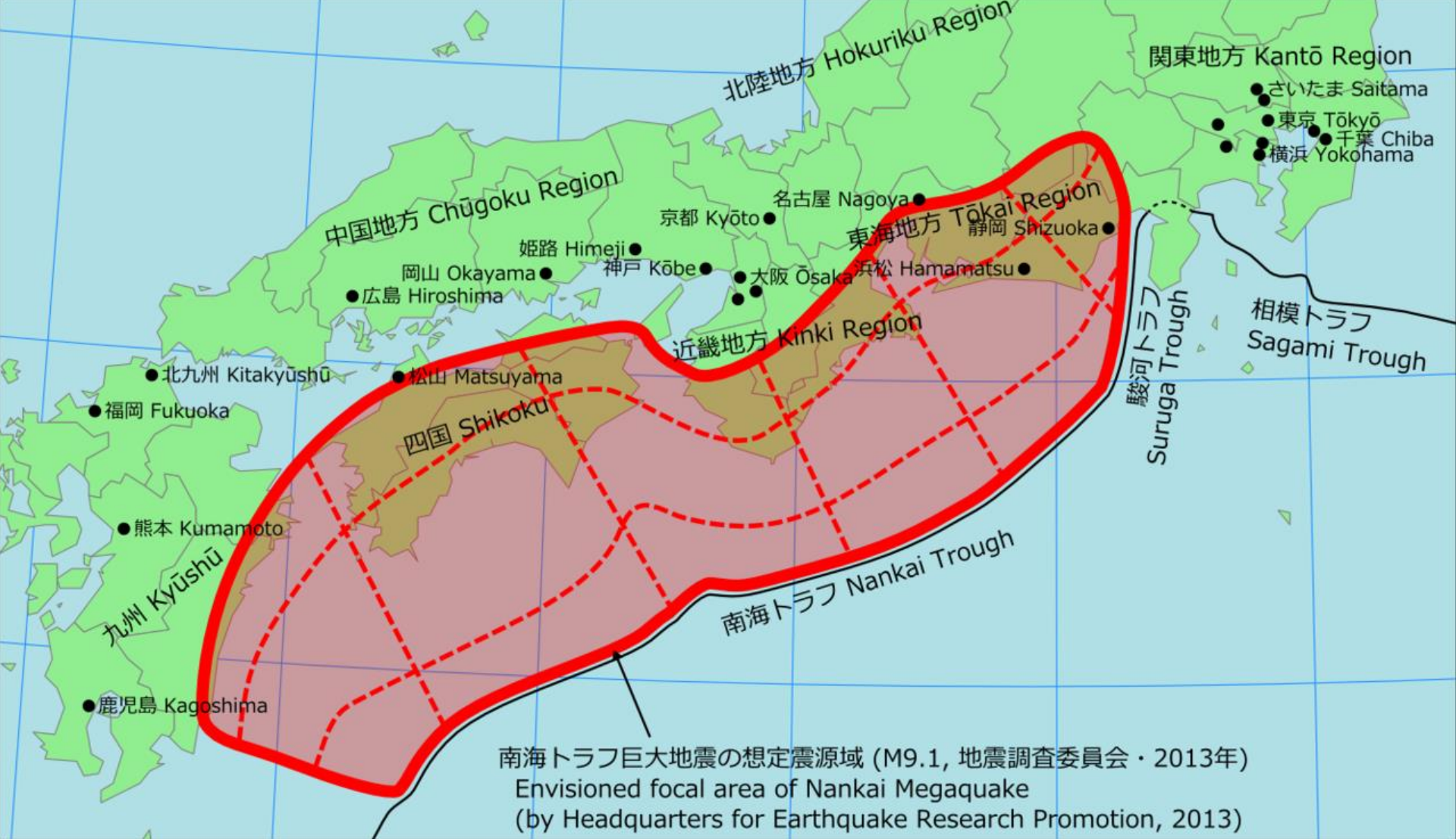


3. 南海トラフ地震対策活動



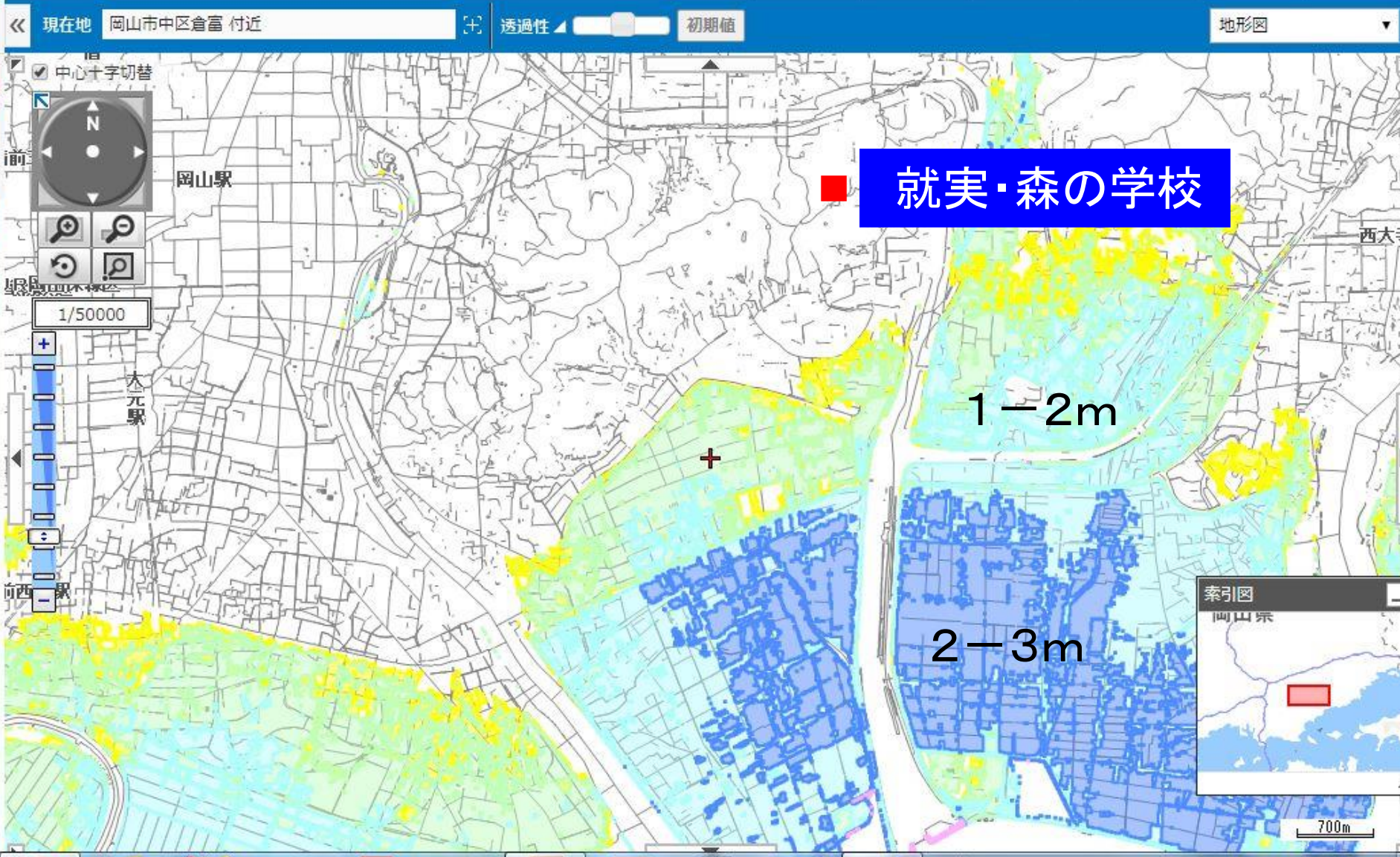
岡山市中区祇園上空より操山山塊を展望

平成27年2月・岡山市防災へリにて撮影



- ◆ 30年以内に80%の確立で発生と発表されている。
- ◆ もし四国沖合で発生したとすると、児島湾には3時間後に約3mの津波が来ると発表されている。

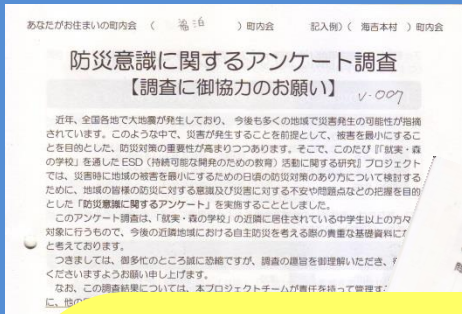
津波マップ



中区富山学区における 防災意識アンケート

平成29年1月~2月

対象: 富山学区 5, 106世帯
回収数: 1, 240 回収率: 24, 2%



岡山市民の防災意識に関する研究 - 「就実の森」周辺住民へのアンケート調査から -

就実短期大学 ○小田奈緒美, 就実学園 石田省三,
就実大学 高木亮, 中塚朋子, 高見陽一郎, 加賀美太記, 福井広和,
就実学園 平島省三, 徳田仁司, 森作りサポートセンター 石井哲, 陶芸家 瀧本得幸

【目的】

本研究は、岡山市中区にある「就実の森」周辺住民の防災意識の特徴を明らかにするものである。今後、南海トラフ大地震などの自然災害に備え、地域住民の共助活動を促進するために、近隣の里山である「就実の森」を地域市民の防災拠点として有効活用するための方法を探ることを目的とした。

【方法】

1. 調査方法：アンケート調査「防災に関するアンケート調査」
2. 調査日時：2017年1~2月
3. 調査対象者：岡山市中区今谷にある「就実の森」周辺地域である富山学区21町内会全世帯5100世帯および富山中学校生徒338名の合計5,438名。
4. 調査内容：本調査で把握する内容は、防災に関する意識、認知度および具体的な対策に関する項目である。アンケート調査内容は、災害意識・知識、災害時の助け合い、防災対策、ESDなど広範囲な内容にわたって実施した。



図1 「就実の森」位置図
(岡山市中区今谷) 岡山市提供写真

表1 アンケート調査概要

調査項目	設問数	具体的内容
I. 災害意識・知識	7	現状認識、避難場所・自主防災組織の認知など
II. 災害時の助け合い	4	自助・共助・公助の認知度、被災時の行動など
III. 防災対策	6	地域防災活動の参加度、家庭での対策など
IV. ESD	3	ESD認知度、ESD関連行事への参加度など
V. 回答者属性	7	年齢、性別、職業、居住形態など

【結果】

本調査の回収率は1,366 (回収率は25.1%)、有効回答数は1,281であった。分析の結果、「就実の森」周辺の住民は、現在、住んでいる地域は災害に対し「安全」と考えており、その傾向は女性よりも男性が、高齢者層よりも若年者層において顕著にみられた。また、想定される災害では、地震に続き、豪雨や台風が起きると考えていることがわかった。ハザードマップの所持率は30%前後にとどまり、特に若年層の所持率は低かった。自主防災組織の認知度は男女とも60%前後であり、ESDの認知度は全体の60%以上が「知らない」と答えており認知度の低さが明らかとなった。

表2 調査対象者の属性

性別	人数	構成比
男性	540	41.7
女性	754	58.3
合計	1294	100.0
年齢	人数	構成比
19歳以下	284	21.9
20歳代	16	1.2
30歳代	66	5.1
40歳代	126	9.7
50歳代	149	11.5
60歳代	277	21.4
70歳以上	376	29.1
		100.0

地域の方々は「災害に対して安全」と考えており、その傾向は女性より、男性が、また、高齢者より若年層にその傾向が強い。

ハザードマップ所有者は全世帯中約30%。特に若年層の所持率が低い。

⇒ 危機意識の向上を図ることが求められる。

海吉本村町内会および海吉中村町内会と
学校法人就実学園との防災協定調印式



地域で共に助け合うために防災協定を調印⇒防災訓練

避難地としての「就実・森の学校」の整備 (中央右手に防災倉庫4棟が見える)



グラウンドの大きさ約100m × 100m



「就実・森の学校」入り口



防災倉庫
岡山東ライオンズクラブから受領 2015.9.29

- 備蓄品:
- ・竹炭
 - ・七輪
 - ・救急薬品
 - ・水(ポリタンク)
 - ・米
 - ・炊事道具
 - ・ヘルメット
 - ・軍手
 - ・簡易テント
 - ・その他



炭釜から竹炭を搬出 2015.6.21



初回の竹炭の貯蔵風景

避難地図を作る

中学生による避難路の調査

A group of four middle school students in dark blue school uniforms are standing in a forest. They are gathered around a large map or document that one student is holding open. The students are wearing various hats: a grey cap, a white cap, a white bucket hat, and a white visor. The forest has many trees with green leaves, and a blue ribbon is tied to a tree trunk on the left. The scene is brightly lit, suggesting a sunny day.



避難路をふさぐ倒木の処理作業



距離計による避難路の実測調査

災害時避難地図

避難地『就実・森の学校』岡山市中区今谷



完成した避難路地図 全戸配布予定

本事業は「2017年全労済地域貢献助成事業」の助成を受けています。

避難訓練の実施

目的： 巨大災害時の避難地（就実・森の学校）
の確認及び避難生活体験

実施日： 平成30年12月8日（土）

参加者： 富山中学校・海吉本村・海吉中村町内会
200名～300名

主催： 富山公民館 就実・森の学校



11 住み続けられる
まちづくりを



15 陸の豊かさも
守ろう



私達が、陸の豊かさを守り、住み続けられる
まちづくりを実現させていきます。